

## 第47回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

- |   |     |                               |                   |
|---|-----|-------------------------------|-------------------|
| 1 | 日時  | 令和7年12月17日(水) 午前10時00分～11時30分 |                   |
| 2 | 場所  | 蒲郡市役所 303 会議室                 |                   |
| 3 | 出席者 | 委員 愛知工科大学機械システム工学科教授          | 村上新               |
|   |     | 委員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授      | 松本幸正 (欠席)         |
|   |     | 委員 愛知運輸支局                     | 原田光一郎             |
|   |     | 委員 愛知県都市整備局交通対策課              | 石屋義道<br>(代理 伊藤智哉) |
|   |     | 委員 総代連合会会長                    | 細井政雄 (欠席)         |
|   |     | 委員 形原地区公共交通協議会                | 藤田幸三              |
|   |     | 委員 東部地区公共交通協議会                | 小田貞夫              |
|   |     | 委員 西部地区公共交通協議会                | 倉橋勝良              |
|   |     | 委員 三谷地区公共交通協議会                | 小田勝一              |
|   |     | 委員 大塚地区公共交通協議会                | 山口俊明              |
|   |     | 委員 西浦地区公共交通協議会                | 壁谷隆               |
|   |     | 委員 塩津地区公共交通協議会                | 榊原関保              |
|   |     | 委員 蒲郡市身体障害者福祉協会               | 神田元治              |
|   |     | 委員 蒲郡市老人クラブ連合会                | 鈴木香代子             |
|   |     | 委員 蒲郡市社会福祉協議会                 | 竹内仁人 (欠席)         |
|   |     | 委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会            | 鈴木善晴 (欠席)         |
|   |     | 委員 NPO法人ブックパートナー              | 岡田有里子             |
|   |     | 委員 蒲郡市ボランティア連絡協議会             | 山本なおみ             |
|   |     | 委員 蒲郡市子ども会連絡協議会               | 坪井英幸              |
|   |     | 委員 蒲郡商工会議所                    | 小澤素生<br>(代理 青木宣貴) |
|   |     | 委員 蒲郡市観光協会                    | 杉山和弘              |
|   |     | 委員 名鉄バス株式会社                   | 後藤泰之              |
|   |     | 委員 豊鉄タクシー株式会社                 | 鈴木英司              |
|   |     | 委員 株式会社かねー自動車                 | 黒木成美              |
|   |     | 委員 名古屋鉄道株式会社                  | 高井勇輔<br>(代理 内藤真一) |
|   |     | 委員 公益社団法人愛知県バス協会              | 小林裕之              |
|   |     | 委員 愛知県タクシー協会                  | 小笠原洋和             |
|   |     | 委員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会           | 壁谷政志              |
|   |     | 委員 愛知県蒲郡警察署                   | 磯貝篤               |
|   |     | 委員 東三河建設事務所                   | 奥谷敦史              |
|   |     | 委員 蒲郡市長                       | 鈴木寿明              |

委員	蒲郡市市民生活部長	大森康弘
事務局	蒲郡市交通防犯課長	磯貝友宏
	蒲郡市交通防犯課係長	伴文明
	蒲郡市交通防犯課主査	石川雄策
	蒲郡市交通防犯課主事	山村輝良々
	地域公共交通計画推進事業受託事業者	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 2名

#### 4 議題

##### (1) 開会挨拶

#### 5 協議事項

(1) 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る自己評価について・・・【資料1】

(2) 第二次蒲郡市地域公共交通計画（案）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料2】

#### 6 報告事項

(1) 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施結果について・・・・・・・・・・【資料3】

#### 7 その他

#### 8 議事内容

##### (1) 開会

- ・ 出席委員が29名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており、傍聴を希望される方がいることが事務局より報告された。

##### (2) 議題

###### ・ 開会挨拶

市民生活に欠かせない公共交通のための重要な会議であり、よりよい交通ネットワークを実現するために、皆様のご意見を参考に検討を進めたい。今回は公共交通計画案が固まってきているので、協議をお願いし、その後パブリックコメントの実施を予定している。それぞれの立場から積極的なご意見をお願いする、とのあいさつがあった。

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

##### (3) 協議事項

ア 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る自己評価について

- ・ 事務局より資料1に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 資料中、高齢者タクシー運賃助成制度の利用減少理由についての記載において、タクシーの稼働台数の減少が原因の一つとあるが、コロナ禍以降台数は減少をしていない。計画案の記載では、支線バス整備が進んだことが原因の一つであるとされており、ずれがある。また、配布枚数が減少していることから、それも理由の一つしてであると

思われる。

(事務局)

- ・ 様々な要因が考えられる。表現が統一されていない部分について、統一した表現で整理する。配布枚数の減少については、新たに対象年齢になる方の免許保有率が高い傾向があり、チケットを必要とする人が少なかったと考えられる。

(委員)

- ・ 稼働台数の減少しか記載がないためタクシーの台数が足りないように見えてしまうため、そこは再考いただきたい。

(委員)

- ・ コロナ前と比較すると稼働台数の減少は事実あると思う。予約しようとしたが配車できなかったということを窓口で聞かれるのではないか。稼働台数が減少したことでタクシー利用が減ったというストーリーは成り立つだろう。

(事務局)

- ・ 実際に断られたという声や事例は何度か聞いたことがある。

(委員)

- ・ 窓口ではそういうことも事実としてあるだろう、タクシー台数が減っていることは間違いではないと思う。蒲郡市のタクシー事業はどうか。

(委員)

- ・ 稼働台数について、現在減っている状態ではない。午前中で予約時間が重なると取りにくいという状態が発生しているのは間違いはない。蒲郡市に限らず県内どこも起きている事象。

(委員)

- ・ 今の話を踏まえると、時間帯によっては需要に対して十分な供給がない、もしくは少ないという表現が妥当と思われる。

(事務局)

- ・ 記載を修正したい。

(委員)

- ・ 中部様式で計画全体の評価やそれに対するアクション等が記載されており良いと思う。達成状況の表について、達成度に応じて色の違いをつけると見やすいかもしれない。今後の取組みについて書いてあることはとても良いものであるため、ぜひ進めていただきたい。

一方で、中部様式の記載内容が国様式に書かれるべきであると思うが、国様式との齟齬が気になる。国様式に目標設定の見直しということが書かれているが後ろ向きな内容であるし、利用促進や路線見直しなどの記載がを優先したい。中部様式との差異については修正をすべき。

(事務局)

- ・ 事業評価の外側の話でもあり、国様式の当該記述は削除したい。

(委員)

- ・ 前々回の会議で MaaS の話があったと思う。人員不足によるタクシー問題や高齢者の

増加などもあり、簡単にアプリで呼べるような仕組みを導入すべきと考える。「観光交流立市」を目指すのであれば、観光客・市民が一緒になって二次交通が使える仕組みが必要だと思う。東三河 MaaS の実証実験を踏まえ、蒲郡市が率先して仕掛けていくべきと思う。観光協会も全面的に協力していくので、交通会議を含め上手に使っていただきたい。

現状はどうなっているか。

(事務局)

- ・ 東三河 MaaS の web サイト「いこまい」については、令和 7 年 4 月から本格運用となっており、引き続き東三河と連携して実施している。以前は、情報の掲載は事業者経由で行っていたが、改修を行い直接更新できるようにした。経路検索機能もあり、市 HP やチラシでは提供しにくかった情報の提供方法を始めている段階である。今後、システムの改修も進めつつ、情報発信手段として上手く活用していきたい。現状、報告できる具体的な取組みは特段ない。

(委員)

- ・ 蒲郡市では MaaS がまだないということによいか、早めにやった方がいいと思う。移動手段については田舎ほど問題が起こっている。ぜひ、蒲郡市で先手を切って、東三河とも連携しながら、MaaS の拡充や実験をどんどん進めていっていただきたい。

(委員)

- ・ 東三河 MaaS ではおでかけ情報などを掲載していく。観光協会とも話ししながら進めていければと考える。

(委員)

- ・ 中部様式 8 ページのフィーダー系統の今後の対応のところで、モニタリングを 7 地区で実施するとある。具体的にどのような形で実施するか、例えば OD 調査や住民へのヒアリングを想定しているのか。

(委員)

- ・ 交通会議での実績確認に加えて、各地区協議会での検討を進めたい。停留所別の乗降者数データを活用して停留所位置の検討など、協議の中で既にどこそこに行きたいなどルート変更の話もあり、路線バスの再編に合わせて協議をしていきたい。

#### イ 第二次蒲郡市地域公共交通計画（案）について

- ・ 事務局より資料 2 に基づく説明が行われ、現時点の案についてパブリックコメントを行うことについて、全会一致で承認された。

[質疑]

(委員)

- ・ 23 ページにて、フィーダー補助について記載いただいているが、車両の購入補助を活用することがあれば、フィーダー補助以外に車両購入費等に対する補助についての記載を追加しておいていただきたい。
- ・ 28 ページの目標について、人口カバーの計算方法などの定義や前提について記載をいただきたい。

(事務局)

- ・ 23 ページについて、実施の予定がなくても記載しておくことに問題なければ、追記したい。
- ・ 28 ページについて追記する。

(委員)

- ・ この案でパブリックコメントをかけることになる、それを前提として話をする。
- ・ 本日、資料 1-3 で計画の評価をしたが、これは国から求められており、年に 1 回、交通会議にて協議し、確認をしてもらいなさいということで実施している。令和 6 年度を対象とする場合、本来は 6 月の会議で実施することが望ましい。そのため、計画案中の PDCA について、35 ページの図表 3-10 において、計画の評価を 6 月会議で実施する旨を追加した方がよい。
- ・ 観光にとって二次交通はすごく重要で、来訪者にとって MaaS のようなアプリを通じてわかりやすくした方がよい、かつ、観光協会も協力いただけるということであるが、現在の案では、MaaS・観光の視点がほとんどないので、観光協会の前向きな姿勢を踏まえて記載できるとよいがどうか。

(委員)

- ・ 市民と観光客が共存できるとよい。ぜひ蒲郡市から発信して MaaS の広域連携を進めていけるとよい。これから間違いなくそうした時代がやってくると思うので、外国の素晴らしい仕組みなども含めて考えていく必要がある。市民にも観光客にも喜んでもらえるよう早い方がよい。

この会議を通じて、観光に関してどこまで積極的にやってよいのか不安もある。観光客はその日に何人来るかかわからないところがあり、市民が乗れない状況になるのは良くないと思う。コミュニティバスの乗車人数が 1~2 人程度のものもあれば 4 人のものであるので、空きがあれば観光協会としても積極的に宣伝できる。

(委員)

- ・ 市民の移動サービスを支えるのが観光客であるということは往々にしてある。そのため、実は市民と観光客を分ける必要ないと思っている。蒲郡市が観光について記載しないわけにはいかないと思っているが、薄くなってしまっているので、先ほどの意見を踏まえてもう少し観光を強めてよい。

例えば、計画目標 6 「ネットワーク全体の移動サービスをの強化を目指す」というところに、「観光客にとって利用しやすい情報提供」などの項目を追加し、市と観光協会が協力して取り組むことを位置付けるなどが考えられる。

(事務局)

- ・ パブリックコメントに向けて、ご確認いただきながら追加を検討したい。

(委員)

- ・ 東三河 MaaS についても運用継続しているので記載していただければよいと思う。これは豊鉄が中心になってやっているが、より広域で見れば名鉄が提供している CentX がある。
- ・ 東三河 MaaS は web 版だが、CentX はスマホのアプリになっている。東三河 MaaS は CentX

の機能と連携している。公共交通の利用促進ということであわせてよろしく願います。

(委員)

- ・ ぜひお願いしたい。一企業を応援するわけではなく、事業者として公共交通分担率を上げていきたいということを謳っており、その趣旨を応援している。
- ・ レンタサイクル事業について伺いたい。レンタサイクルの時代ではないと思うが、観光協会としてはどうか。

(委員)

- ・ 観光協会としては、二次交通として、自転車だけでなくもよいが、簡単に借りて返すことが可能なものを構築したい、他の地域ではキックボードのようなものもある。ぜひやっていきたい。

(委員)

- ・ 蒲郡市はシェアサイクルと相性が良いと思うので十分に可能だと思う。二次交通・三次交通にもなりうるので、そういう位置付けとしてシェアサイクルをいれるのもよい。シェアサイクルに関しては国の補助が整備されており、導入に関しては補助金が見えるかもしれない。

第三次自転車活用推進計画においては、公共交通とシェアサイクルの連携を位置付けなさいとされており、推進されている。高齢の方が気軽に借りられるようなシェアサイクルあるいは座って乗れるようなキックボードなどもすぐに出てくるだろう。ぜひ、観光の観点からも意識して活用いただきたい。

今回の意見は必ずしもこの場で反映してくれというものではない、パブリックコメントを受けての修正でもよい。

- ・ 基本的に地域公共交通がターゲットにするものとして3Kがある。高齢者、高校生、観光客。高齢者は取り組んできている。観光客は先ほどまでの話であるが、実は高校生が大事になる。高校生が自分で通学できる環境を作ってあげるべきで、他自治体では高校生を非常に気にし始めている。将来を背負って立つのは高校生、気に入ってもらえないと流出してしまう。今回の計画に入れるのは無理があると思うので、次の計画更新の際にはぜひ入れてもらいたい。

蒲郡市は資源が豊富で素晴らしいところ、二地域居住の考え方を踏まえた検討をし、蒲郡に人を呼び込むための公共交通について、今後のためにも考えていくべきである。これも次回の計画で良いと思う。

最後に、現在の計画は、国の補助金を獲得するための請求書になっており、現実的で、請求書としてはよいと思う。一方で、市民が見てわくわくするようなものではない。次回の計画以降では、請求書としての役割を果たしつつ、市民にもわかりやすいものに仕上げたい。

#### (4) 報告事項

- ア 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施結果について
  - ・ 事務局より資料3に基づく報告がおこなれた。

〔質 疑〕

なし

(5) その他

(委 員)

- ・ 情報提供。

エコモビ実践キャンペーン 2025 について。

愛知県民の日学校ホリデーに合わせた電車バスの乗り放題切符の発売について。

(委 員)

- ・ 形原地区のあじさいくるりんバスの乗車実績は現状がピークと思われ、増便等がなければ乗車人数が増えない領域に来ている。これまでは形原地区の利用者増加ばかりを考えていたが、高齢者の外出促進・住民福祉の向上といった趣旨を全体で推進していきたい。

実は、10月のネットワーク検討部会にて、利用が伸びない西浦地区との合併はどうかという案が出た。両地区は買物・病院など生活圏が共通しているところも多い。2台のバスでうまく運行したら、より有効に支線バスを利用できるのではないかと考える。路線再編の動きと合わせて、地区・市・交通事業者がともに考え2年間程度のスパンで検討していけたらと思う。みなさんの意見を伺いたい。

(委 員)

- ・ 連携するのはすごく良いと思う。ただ、あまり長い路線は嫌われてしまうことになることを留意いただきたい。ともに検討するのは素晴らしいこと。

(事務局)

- ・ 形原・西浦地区が話し合いをし、これでいこうとなれば進めていけると思う。利用者にとって利便性が本当にあるか、路線が長くなることで利用しなくなる可能性には留意しつつも、協議を行い進めていければと思う。

(委 員)

- ・ 西浦地区も1年経っており、実際の利用状況のデータを踏まえて検討するとよい。共存する名鉄バス（幹線バス）との検討とあわせて一緒になって取り組むとよいと思う。

各地区から近況等ご報告いただければと思う。

(委 員)

- ・ 今年度は減少している。利用者・運転手に話を伺うと利用の多かった方が施設に入ったり外出しなくなったりという話を聞いた。現状のままでは今後減少してってしまう。

次にどんな魅力を考えるか。バスが止まる場所・利用する場所への運行など、少しでもみなさんが利用するような検討をしていくべきだろうと思っている。ご協力をお願いします。

(委 員)

- ・ 観光協会での宣伝もよいか、

(委員)

- ・ ぜひみなさん使っていただきたい。

車両サイズで乗り入れできないところもあるだろう。考えようによっては魅力のある場所を通過していくのも考えられる。お互いによろしくお願いします。

(委員)

- ・ 東部地区は、施設の移転に伴い2カ所ほどルート・停留所の検討をしている。

(委員)

- ・ 西部地区は、利用をどう伸ばすか悩んでいる。小学校低学年の真夏の下校対策で活用したいという意見がある。観光面では、神ノ郷城跡という史跡があり、利用を増やすヒントになると思う。

(委員)

- ・ 三谷地区の利用者が減少していることは残念だ。市民病院へ行けるようになることを希望している。再編に伴い、利用者の増加を期待している。

(委員)

- ・ 大塚地区では、両端にある保育園が統合される動きがあり、見学のためにバスを利用している。西部地区の意見にもあったが、熱中症対策で小学校からくるりんバス利用の話が出ている。地区としても補助を出すなど考えたい。

(委員)

- ・ 西浦地区は、一便あたり利用者数が1人に満たない状況が続いていることもあり、形原地区との共同運行を検討できればという話がある。

6月は看護学校の学生に乗ってもらい、8月は公民館周辺でふれあい活動を開催しバス利用を促すことで若干増加した。

元気な高齢者が多く自分で運転しているため利用が伸びにくい実態がある。先ほどの保育園の話や体験乗車の話もあり考えていきたい。

(委員)

- ・ 塩津地区は走り始めたところであるが、初月は一便あたり1.7人と他と比べてもまだまだ低い。住民に周知・利用してもらい、意見を吸い上げていく必要がある、改善に活かしていきたい。

先日、運転手から話を聞きながら1周乗った。皆様の力をお借りしながら少しでも使いやすいものになるようにしていきたい。

(委員)

- ・ 皆さんありがとうございます。発言の中にあっという間に地区にはいろいろな資源がある、城跡も一例だろう。例えば若者はどうしているかというと、Instagramで良い場所を見つけ、グーグルマップで行き方を調べる。車を持っていないので、公共交通を使って観光している。地域資源を発信することで利用促進に繋がる。

(市長)

- ・ 計画に観光の視点が少なかった反省を踏まえて記載していきたい。例えばMaaSやDXなどもこれからで、観光協会とも連携しながら取り組みたい。3K（高齢者、高校生、

観光客)という視点もしっかり考えたい。

各地区の皆様のおかげでコミュニティバスが運行され、カバー率は9割を超えているものの、残りの1割弱や不便を感じる市民がいるので、しっかり耳を傾けていきたい。

タクシー利用の減少は、物価上昇などの社会状況により利用控えが進んでいることも考えられる。タクシーの台数は企業の問題だけではない、社会全体の状況も踏まえて検討していきたい。

市では、小学校の統合、図書館「みらいキャンパス」、東港開発など、まちづくりの変化がいろいろある。計画もそうしたものを踏まえていくべきである。スターバックスもできたが、高校生などはなかなかそこまで行けないということもあると思う。市民・観光客にとって利便性を感じる公共交通に育っていく必要がある。

名鉄蒲郡線のみなし上下分離方式による15年の存続方針を決めた。これについても、国・県・西尾市・事業者とともに計画を作っていく。

引き続きご協力をお願いします。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議について、3月10日(火)14時30分からを予定、正式な開催案内を後日送付するとの連絡を行い会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

蒲郡市地域公共交通会議委員

---

蒲郡市地域公共交通会議委員

---